



『砂の上の1DK』
BOOK☆WALKER限定特典
枯野瑛
書き下ろしショートストーリー

© 2018 A-1 Pictures / 4Gamer.net

『門崎伊桜の恋愛事情』

彼氏を作る気はないのかと、門崎伊桜は、よく聞かれる。

質問者はいろいろで、意図も様々だ。純粋に興味で聞いてくる友人、恋敵になるのではないかと牽制をかけてくるクラスメイト（女子）、不器用に探りを入れてくるクラスメイト（男子）。あとは、若い子相手の話題を他に思いつけない、病院のおじちゃんおばちゃんたちなどなど。

そのたびに、伊桜は「ないよー」と答えている。

「まあ、わからんでもない」

昼食中、弁当箱のたこさんウィンナーをつつきながら、クラスメイトが頷く。

「いおきちは大人っぽいからなー。クラスの男子なぞ子供にしか見えまい」

「……んー、まあ、そういうのも、あるかな？」

伊桜は言葉を濁した。

外見が大人っぽいとは、確かによく言われる。同世代、つまり十四歳の友人たちよりも身長があり、スタイルもまあそれに相応。少々背伸びをした服を着て、ちよつと童顔の二十歳ですと言い張れば、おそらく誰も疑わないだろう。

「だからあれだ、おじさま趣味とかに走りそうなタイプだ。お金持ってるナイスダンディ以外は呼びびじゃない系の女だ」

「まあちゃん、最近、脳みそがレディコミに偏りすぎじゃない？」

軽い気持ちで言ったら、まあちゃんは丸縁の眼鏡をきらりと光らせた。

「おっと、それは偏見だ。年上スパダリはレディコミの特権というわけじゃない、むしろ本来は王道少女漫画こそが本家。小学生から見た中学生、中学生から見た大学生。自分の知らない社会に属し、そこで実力と地位を築いているらしいイケメン。その異次元の包容力を幼い自分ひとりに対して発揮してくれる、無上の安心感と優越感。これはもう半世紀以上の歴史を持つ不動にして永遠のシチュエーションなのだからにして」

「急に早口になったね」

受け流しつつ、伊桜は紙パックのオレンジジュースをべこりとやる。

「その坩堝でぐつぐつ煮込まれて、滲みだした甘あいエッセンス。それがレディコミを今の形に味つけしているのだと言っても過言ではない」

「よくわからないけど、確実に過言だと思うな」

「うむ、勢いで言っちゃったけど、自分でもそう思う」

力強く頷かれた。まあちゃんには、そういうところがある。

「でもまあ、いおきちにクラスの男子は合わないかなーってのはわりとマジで思う。あれでしょ、バイトでふつうに大人相手の仕事とかしてるんでしょ？」

「バイトじゃないよ、実家の手伝い」

「そうだった」

この学校、アルバイト禁止でこそないが、正式に許可をとろうと思ったらそれなりに面倒な書類を提出させられる。ごまかせるものならごまかしてしまいたいというのが生徒一同の共通認識である。

「いつも大人とつきあってたなら、もう、いちいちガキの相手とかしてらんないでしょ」

「えー……それは、ちよつと違うかなー。説明難しいけど」

「んお？　なんだ、面白そうな話？　まさか本当に年上の彼氏？」

「んーん、それは違うけど」

首を横に振る。ついでに、空になった紙パックを握りつぶす。

「本当に、全然、これつつっぽつつちも、そういう話じゃないんだけど」

「お、おう」

なぜか気圧されたように、まあちゃんが小さく頷く。

「見て見て伊桜ちゃん、四面そろった」

待ち合わせ場所で顔を合わせるなり、篠木孝太郎は顔を輝かせてそう言った。

突き出されたのは、ばらばらになった色を揃えましょうで有名な、あの立体パズルである。見たところ確かに、のこりわずかなピースをのぞき、ほとんどすべての色が揃っているように見える。

「いやーもー、ここまで長かった。だがしかし、ここまで来たらあと一歩、がんばった自分を褒めてやりたい。伊桜ちゃんも褒めてくれていいんだよ？　ね？」

「……うん。がんばったね、えらいえらい」

棒読みで称えてやると、孝太郎はまんざらでもなさそうに笑う。

（クラスの男子が子供にしか見えない、ってのは、まあ、確かにそうなんだけどさ）
まあちゃんとの会話を思い出しつつ、伊桜は指先で頬を掻いた。

（年上だろうと大人だろうと、結局、男の子は男の子なんだよなあ、って）

少年のように本気ではしゃぐサングラス姿の二十五歳児を前に、伊桜は思う。

（……うん。やっぱりしばらく、彼氏とかそういうのは、どうでもいいや）
そして一人、しっかりと頷いた。

【購入特典】

『砂の上の1DK』

BOOK☆WALKER限定書き下ろしショートストーリー

2022年9月1日 発行

著者	枯野瑛
編集	角川スニーカー文庫編集部
発行所	株式会社KADOKAWA 〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
制作	株式会社ブックウォーカー 〒102-0076 東京都千代田区五番町3-1 五番町グランドビル3F

© Akira Kareno イラスト：みすみ

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、配信、送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。また、本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。本作品購入時にご承諾いただいた規約により、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

角川スニーカー文庫	https://sneakerbunko.jp/
BOOK☆WALKER	https://bookwalker.jp/
株式会社KADOKAWA	https://www.kadokawa.co.jp/
